

令和6年度上半期（4月～9月）資金運用状況について

長 崎 大 学

本学では、寄附金を原資とする特定余裕金による運用と、自己収入等の収入額のうち、すぐには支払いに充てない一般余裕金による運用により運用益を得て、その運用益を本学の事業経費に充当しています。令和6年度上半期（4月～9月）の資金運用状況は次のとおりです。

1. 資金運用管理委員会の開催状況

- ・令和6年度第1回 開催日：令和6年6月13日（木）
 - ・審議事項「委託運用の運用状況報告（3月～5月）について」
 - ・審議事項「令和5年度運用実績報告・情報公開（ホームページ掲載）について」
- ・令和6年度第2回 開催日：令和6年9月13日（金）
 - ・審議事項「委託運用の運用状況報告（6月～8月）について」
 - ・審議事項「令和6年度余裕金の運用状況報告（4月～6月）について」

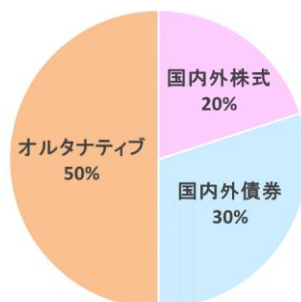
2. 令和6年度上半期における運用実績（令和6年9月30日現在）

特定余裕金による運用

（委託運用）

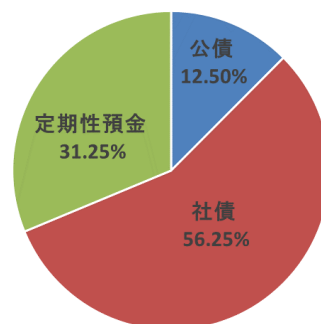
資産種別	運用額	構成割合	評価損益額
国内外株式	6 億円	20%	106,637,111 円 ※令和 6 年 9 月 30 日 現在の評価損益
国内外債券	9 億円	30%	
オルタナティブ	15 億円	50%	
計	30 億円	100%	

【実践ポートフォリオ】



（自家運用）

資産種別	運用額	構成割合	運用益実績額
公債	2 億円	12.5%	800,000 円
社債	9 億円	56.25%	5,610,000 円
定期預金	5 億円	31.25%	2,368,428 円
計	16 億円	100%	8,778,428 円



一般余裕金による運用

（自家運用）

資産種別	運用額	運用益実績額
定期預金	90 億円	1,089,862 円

【マーケット概況（4月～9月）】

S&P500は、2024年3月末の5,254ptから2024年9月末の5,762ptと9.6%の上昇となりました。一時的に、景気に対する不透明感が高まりましたが、マーケットで政策金利引き下げの織り込みが進んだことや、実際の景気指標が堅調であったこと等から、株価は上昇しました。

TOPIXは、2024年3月末2,768ptから2024年9月末の2,645ptと4.4%の下落となりました。企業業績は堅調ながら、消費は力強さを欠く状況下、7月末に日銀が政策金利の引き上げに踏み切ると、円高ドル安が進み、株価は乱高下しました。

米国の10年国債金利は、2024年3月末の4.20%に対し、2024年9月末では3.78%となりました。米国FRBのパウエル議長がインフレ指標のみならず雇用などにも注意を払うスタンスを見せ始めたこと、米国経済の先行きに不透明感が出てきたこと等を受け、米国金利は低下基調となりました。

日本の10年国債金利は、2024年3月末の0.72%から2024年9月末の0.86%となりました。日銀のマイナス金利解除後、金融政策正常化の機運が高まったことで、一時、10年国債金利は1.0%を上回りました。しかし、日銀が7月末に政策金利の引き上げを決定、植田総裁はさらなる利上げを示唆したことで、金融市場は混乱し10年国債金利は低下しました。

為替は、2024年3月末の151.3円/ドルから2024年9月末の143.6円/ドルへ円高ドル安となりました。6月に日銀が量的緩和の縮小を見送ると、投機的な動きも加わり為替は一時的に160円/ドルを上回りました。その後、日銀が政策金利の引き上げを行ったため、円高ドル安が進みました。

※マーケット概況のとおり、米国金利低下により米国優先リートが改善し、足元円高傾向ではあるが為替の影響を受けにくい米国株私募が伸長した結果、委託運用資産の令和6年9月30日時点の評価損益額は106,637,111円となりました。